Global Market Outlook

EUR/USD下落はまだ終わらない

2014年９月29日（月）

第一生命経済研究所　経済調査部
藤代　宏一
TEL 03-5221-4523

＜主要株価指数＞

	終値	前日比
日経平均※	16311.68	81.82
ＮＹダウ	17,113.15	167.35
ＤＡＸ（独）	9,490.55	-19.46
FTSE100（英）	6,649.39	9.68
CAC40(仏)	4,394.75	39.47

＜外国為替＞※

ドル円	109.42 円	0.13 円
ユーロドル	1.2679 ﾄﾞﾙ	-0.00 ﾄﾞﾙ

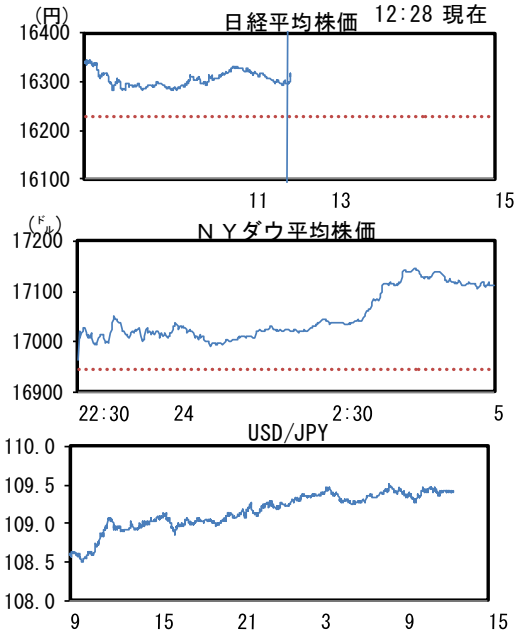
＜長期金利＞※

日本	0.518 %	-0.005 %
米国	2.528 %	0.025 %
英国	2.468 %	0.023 %
ドイツ	0.972 %	-0.001 %
フランス	1.312 %	-0.009 %
イタリア	2.386 %	0.026 %
スペイン	2.197 %	0.044 %

＜商品＞

ＮＹ原油	93.54 ﾄﾞﾙ	1.01 ﾄﾞﾙ
ＮＹ金	1214.10 ﾄﾞﾙ	-7.10 ﾄﾞﾙ

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。
（出所）Bloomberg

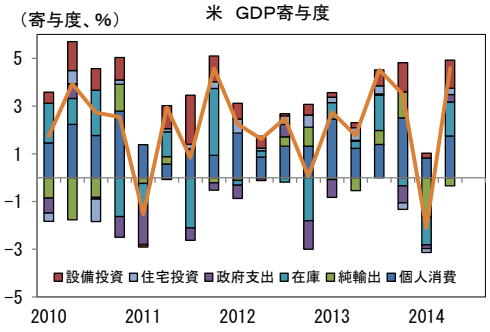


【海外株式市場・経済指標他】　～ＧＤＰ：更に上方改定～

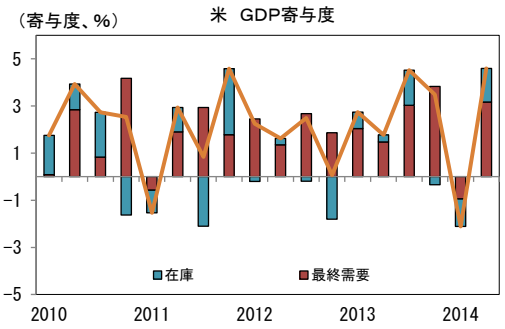
・ＮＹダウ平均株価は前日比＋167.35ﾄﾞﾙの17113.15ﾄﾞﾙで取引終了。

・米ＧＤＰ（２Ｑ）確定値は前期比年率＋4.6%と改定値（＋4.2%）から上方修正されて予想に一致。個人消費（＋2.46%→＋2.54%）が小幅に上方修正されたほか、設備投資（＋8.4%→＋9.7%）を中心に広範な項目が上方修正された。最終需要は＋3.2%に加速（改定値＋2.8%）し、昨年後半のトレンドに回帰。

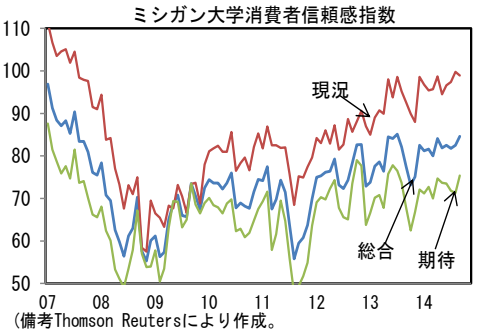
・９月ミシガン大学消費者信頼感指数（確報値）は84.6と速報値に一致。内訳は現況（８月：99.8→９月速報値：98.5→確報値：98.9）が上方修正された一方、期待（71.3→75.6→75.4）は僅かに下方修正。



（備考）Thomson Reutersにより作成



（備考）Thomson Reutersにより作成



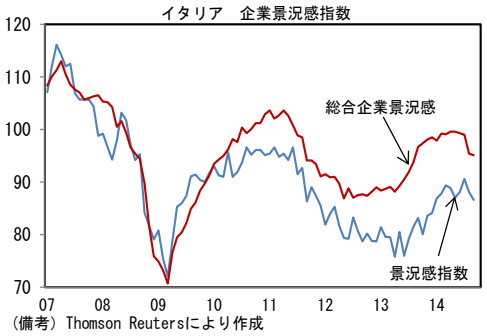
（備考Thomson Reutersにより作成。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

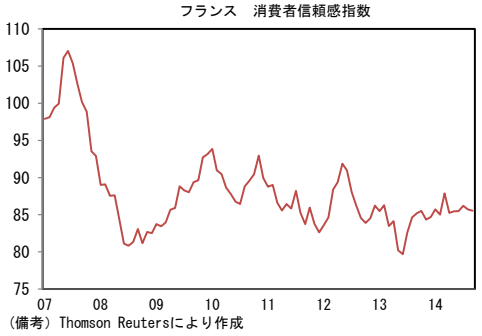
【外国為替相場・債券市場】～ユーロ圏サーベイ：軒並み下向き～

・前日のＧ10通貨は米金利上昇を受けてUSDが全面高。USD/JPYは日本時間午前に上昇を開始すると米国時間午後までほぼ一貫して上昇。EUR/USDは欧州時間から下落開始、1.27を明確に割り込んだ。29日日本時間でもUSD高基調は継続。JPY、EUR、AUDがそれぞれ売られ、USD/JPYは一時109半ばまで上伸。

・米10年金利は＋2.5bpの2.528%。著名債券ファンドマネジャーの移籍報道に対して「同氏が運用を手がけるファンドから資金が流出する」との見方から米債売りで反応。欧州債市場はコア国が小幅金利低下。独10年は当初堅調に推移していたものの米債下落に追随。一方、GIIPS債はやや軟調。上述のファンドマネージャー移籍に伴う資金流出が意識されたとみられる。経済指標は10月ドイツGfK消費者信頼感指数が＋8.3へと軟化して６ヶ月ぶり低水準に落ち込んだほか、９月フランス消費者信頼感指数も85.5と前月から0.2pt軟化。その他では９月イタリア企業景況感指数が95.1と下方修正された前月（95.7→95.4）から一段と低下。リセッション脱却の兆候は未だ確認されない。



（備考）Thomson Reutersにより作成



（備考）Thomson Reutersにより作成

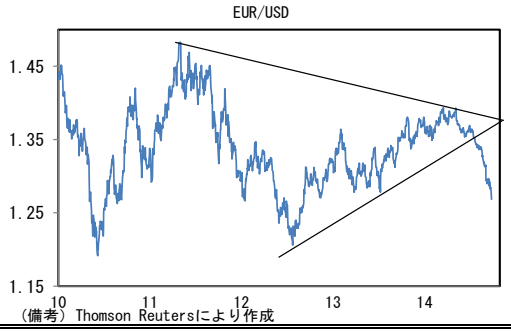
【国内株式市場・経済指標他】～日銀短観に注目～

・日本株は米株高・ドル円反発を受けて高寄り後、もみ合い。

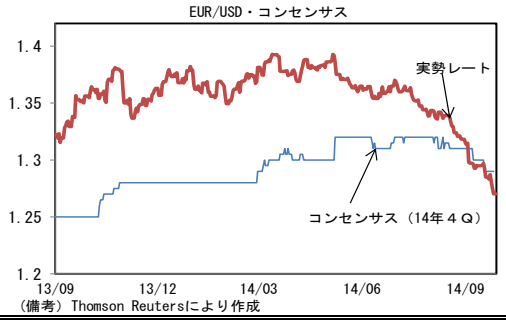
・今週、日本では日銀短観に注目（１日）。当社は大企業製造業の業況判断ＤＩを▲２ポイント悪化の＋10と予想。この程度の軟化に留まれば「夏場の悪天候」や「輸出が想定をやや下回った」といった一時的かつ軽微な要因で説明が付きそうだが、予想を大幅に下振れた場合は「消費増税の影響、想定以上」と、先行きの回復シナリオにも疑問が投げかけられそうだ。そうした観点から売上高・利益計画が順調に進捗しているかにも注意を払うべきだろう。その他では鉱工業生産（30日）が注目される。コンセンサスは前月比＋0.2%と小幅増産だが、当社予想は▲0.2%と減産を見込む。コンセンサス下振れが常態化しているため、“冷や水”には注意が必要。海外では米雇用統計、ＩＳＭ製造業指数、ＥＣＢ理事会に注目。

【注目点】～EUR/USDは1.20割れへ～

・先週末にEUR/USDは1.27を割れ、コンセンサスよりもEURを弱気に傾けていた筆者の年末予想（1.28）をアッサリとブレイクした。筆者はEUR/USDの2014年末予想を1.24へ引き下げたうえ、2015年央までの1.20割れを見込む。2012年７月の欧州債務問題の最中につけた1.206のブレイクは、ＦＥＤの利上げ（期待）とＥＣＢの大規模量的緩和（期待）という真逆の金融政策によって実現される見通しだ。米欧金融政策のベクトル相違とそれを反映した米欧（実質）金利差拡大がEUR/USDの下落ドライバーとなる見込みで、こうした見方に基づくポジション構築は既にコンセンサストレードだろう。



（備考）Thomson Reutersにより作成



（備考）Thomson Reutersにより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。